ISSN-2188-0328　　佐久大学 信州短期大学部紀要，第 33 巻，13-17（2022.3）

文献レビュー

乳幼児を抱える精神障害者の子育て
―保育・福祉領域における研究動向と今後の課題―

尾島万里（佐久大学信州短期大学部）

A Study on the Childcare of the Mentally Illness with Infants

Mari Ojima（Shinshu Junior College at Saku University）

要旨 : 本論では、精神障害を抱える親の子育てに関する保育・福祉分野からの先行研究を整理し、研究の動向と今後の課題について検討することを目的とした。その結果、親の精神疾患を含む精神的不調の問題は児童虐待とも結びついており、児童福祉分野で活躍する精神保健福祉士からの報告や精神障害を抱える親と暮らす子どもへの支援に着目する研究も徐々に増えてきている。しかし公的な支援者として重要となっている保育領域からの発信や、子どもが乳幼児である場合の支援に関する研究は未だ少なく、精神障害を抱える親と乳幼児期の子どもがいる家庭への生活実態も明らかにされてはいない。今後は、生活実態に沿った支援の在り方について、保育領域からの支援の検討が求められる。

キーワード : 精神障害者、子育て、保護者支援、乳幼児

Keywords: The Mentally Illness, Childcare, Support for Parents, Infants

Ⅰ．はじめに

1990 年代以降、少子化の問題がクローズアップされており、国の積極的な少子化対策が展開され、公的な「子育て支援サービス」が拡充されている。しかし、これらのほとんどは、就労者や専業主婦など社会的状況によって孤立している親の支援が主で、精神疾患など何等かの障害を持ちながら子育てをしている人々を念頭において練られているものではない（岡、2003）。

親の精神疾患などを含む精神的不調の問題は児童虐待とも結びついている（松宮、2020）。厚生労働省（2013）による「子ども虐待対応の手引き」によれば、児童虐待のリスクを高める要因を⑴保護者側の要因、⑵子ども側の要因、⑶養育環境の要因に分類している。そのうち保護者側の要因として①妊娠・出産・育児を通して発生するもの、②保護者自身の性格や精神疾患等の身体的・精神的に不健康な状態に起因するもの―望まない妊娠、生まれた子どもに愛情がもてない、保護者の育児不安、保護者の精神疾患及び知的障害、保護者の攻撃的な性格―を挙げている。

また、令和 3 年 8 月に発表された「子ども虐待による死亡事例等の検証について（第 17 次報告）」（厚生労働省、2021）によれば、平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの間に表面化した子ども虐待による死亡事例は 72 例（78 人）であった。

この調査によれば、主な加害者は「実母」で 40 例（41 人）と半数以上を占め、加害の動機には、心中による虐待死において「保護者の精神疾患、精神不安（4 例 7 人）」や「経済的困窮（6 例 7 人）」が挙げられていた。心中以外の虐待死でも養育者（実母）の精神的不調の問題が挙げられており（13 例 13 人）、保護者の精神疾患や精神障害の問題が子育てに影響していることがわかる。松宮（2020）は、「児童福祉、母子保健福祉、教育や保育などの現場において、養育上の支援を必要とする子どもたちの親に何らかのメンタルヘルス問題がみられる世帯が多いことは今や共通認識といってよい。」と指摘している。

そこで、本稿では精神障害を抱える親の子育てに関する保育・福祉分野からの先行研究を整理し、研究の動向と今後の課題について検討することを目的とする。

Ⅱ．研究方法

論文検索 NDL-OPAC 注）を用いて、文献検索を次の方法で行った。なお、対象出版物は 2021 年 8 月 31 日までに出版された雑誌記事（原著論文含む）とした。精神障害を抱える親の子育てに関する研究の文献検索を行うために①「精神障害」「子育て」をキーワードにして検索を行った結果、22 件がヒットした。そのうち結婚及び出産のみに着目した記事と、保育・福祉領域ではない記事 12 件を除外した。②「精神障害」「育児」をキーワードにして検索を行った結果、10 件がヒットしたが、保育・福祉分野からの記事はなかった。さらに、①で抽出した文献の引用・参考文献の中から関連した論文 9 件を加え、合計 19 件の文献を分析した。

Ⅲ．精神障害者の子育てに関する研究動向

1．全体的動向

精神障害を持つ親の子育て支援に関する文献は、2003 年以降から断続的に見られるようになったが、2011 年から 2015 年までは見当たらず、2003 年に 5 件、2020 年に 6 件と 2 度のピークがある。2003 年は全国精神障害者家族会（全家連）が発行していた『季刊地域精神保健福祉情報』が特集を組み、医療機関や役場の保健師、地域の作業所などからの実践報告がなされている。17 年後の 2020 年においては、日本精神保健福祉士協会が協会誌である『精神保健福祉』（通巻 123 号）において児童虐待の特集が組まれ、その中で児童福祉の様々な機関で活躍する精神保健福祉士の活動が紹介された（加藤、2020、松宮、2020、四ツ谷、2020、吉田、2020、大髙、2020 など）。この特集が組まれた背景には、児童相談所における児童虐待の相談対応件数が年々増加し、日本精神保健福祉士協会の中で虐待防止プロジェクトチームが立ち上がり、この特集が企画されたことにある。

保育領域からは 2009 年に青木が保育園を対象にメンタルヘルスが気がかりな保護者を調査（青木、2009）したことに発し、2019 年に太田らの保育所保育士と地域の保健福祉との連携に関する研究、2020 年には保育所保育士を対象にし、メンタルヘルスが気がかりな親子への支援に関する質的調査があった。しかし、福祉領域に比べると保育領域からの発信はまだ少ない。また、保育・福祉領域における研究は、支援者側からの実践報告が中心であった。一方で、数は少ないが当事者を対象に調査したものもある。まず、当事者に関する文献について紹介していくこととする。

2．当事者についての研究

精神障害者である当事者への結婚及び子育てに関する調査は、山口（2007）が「精神医療ユーザー」を利用している 998 人を対象に行っている。それによると、現在子どもがいると答えた人は 141 名おり、子育てのサポート状況は、「親の支援」64 名（52.5％）、「兄弟・親戚などの支援」36 名（29.5％）、「病院関係者の支援」28 名（23.0％）、「保育園や託児所の存在」24 名（19.7％）と続いている。澤田（2012）によれば、子育て中の精神障害者はストレス脆弱性を併せ持っており、特に統合失調症を持つ人の場合、不安をもちやすく、焦りや緊張など

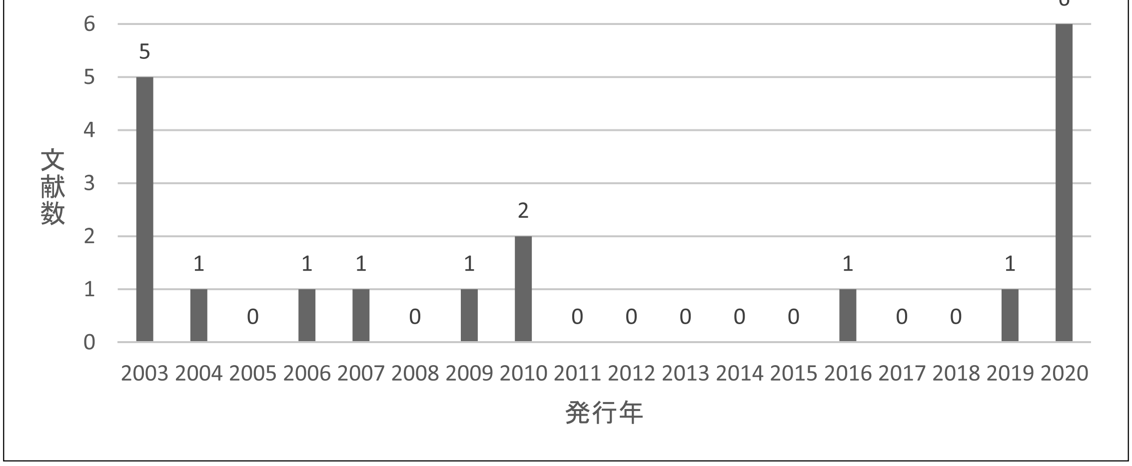

図 1．NDL-OPAC から算出した「精神障害」×「子育て」と「精神障害」×「育児」の文献数

が見られる。また情報の取捨選択が難しいため、複数のことを同時に進めたり、決断したりするのが苦手な傾向にある。さらに、その症状ゆえに人と付き合うことが難しくなり、夫や家族との関係、保育園や幼稚園の職員との関係、親同士の関係、あるいは医師や看護師との関係について苦労している場合があると指摘している。当事者たちは、他者へのコミュニケーションに困難さを抱えつつも、山口（2007）の調査結果からは、彼らの子育てをサポートしているのは、実家を主としたインフォーマルな支援が大きいことが伺える。一方、フォーマルな支援を受けながら子育てをしている人もおり、約20％が保育園や託児所がサポート資源であることは注目に値する。但し、この調査における子育てに関する項目は、ソーシャルサポートの支援状況のみに焦点があたり、当事者たちの生活状況や社会的要因に関しては触れられていなかった。

精神障害者の当事者を調査したものは山口（2007）しか見当たらなかったが、母親の抑うつと育児ストレスについて調査したものとしては草野らの報告（2010）があり、そこでは社会的な要因との関連性を調べている。それによれば、就労している者が専業主婦よりも抑うつ度が低く、経済状況が苦しいと感じている者は、ゆとりがあると感じている者よりも抑うつ度が高かったことを明らかにしている。このことから精神障害を抱える親も、その症状から就労することや経済状況が厳しくなることにより、病状が悪化しているケースもあることが予想される。

その他にも乳幼児期の子どもを育てている母親のメンタルヘルスと関連要因を調査した及川ら（2014）の研究があり、乳幼児期の子どもを育てている母親のメンタルヘルスが良くないことを示している。その背景には、日本における性別役割分業意識により母親にかかる負担が非常に大きいことから、母親のメンタルヘルスが悪化するのではないかと述べている。

ここまで見ると、保育・福祉領域において子育てをしている精神障害者の社会的要因や生活実態を検討した研究がほとんど見当たらない。しかし、子育て中の親の抑うつを含めたメンタルヘルスの問題と社会的要因に関する研究においては、就労状況・経済状況・子育てのサポート状況が影響していることと母親への負担が大きいというジェンダーの問題を抱えていることが明らかになっている。これらのことから精神障害を抱える親も同様な問題を抱えていることが推察される。それでは、支援者側に焦点をあてた研究はどうであろうか。次にその内実を見ていくこととする。

3. 支援者についての研究

支援者についての研究においては、保健の領域からではあるが、保健所・医療機関・乳児院との連携を事例研究し、福祉機関との支援体制を構築する重要性を述べた高田ら（2010）の報告がある。また、近年では、福祉領域から児童福祉領域で働く精神保健福祉士からの調査や実践報告が相次いでいる。今までは「精神障害者の家族」というと、その「親」を示していることが多かったが、最近では「配偶者」や「子ども」も含む（松宮、2020）ようになってきており、精神障害者の子どもへの支援に着目する研究が増えてきている（松宮、2020、四ツ谷、2020、吉田、2020など）。その一つである松宮（2020）の報告においては、要保護児童対策地域協議会の中で検討された児童について所属世帯の特性を示しているが、親にメンタルヘルス問題がみられる世帯が30.9％と高く、児童虐待の背景には、この問題が少なからず存在していることを述べている。その他にも四ツ谷（2020）の児童相談所からの報告や田村（2019）の地域子育て支援拠点事業からの報告、吉田（2020）の児童福祉施設からの報告があり、これらは児童福祉分野で児童虐待防止のために当事者とその子どもを支援する際に精神保健福祉士の視点や専門性が役立っていることを述べている。しかし、現場からの実践報告に留まり、精神障害者である当事者とその子どもの実態が見えてこない。

次に保育領域からは、先述したように、保育所保育士を対象にした質的調査（宮口、2020）がある。それによると、現場の保育士はメンタルヘルスが気がかりな保護者に関し、関わりに難しさを覚えながらも懸命に支え、子どもの成長発達の喜びを語っていた。しかし保護者を保育園だけで抱えると負担が大きいことから、保育アドバイザーや臨床心理士などの専門職導入の必要性を強調している。また、太田ら（2019）は保育園における保護者のメンタルヘルスに焦点をあて、保育所保育士と地域の保健福祉領域との連携に関して調査している。その結果、保護者対応に加えて連携調整、訪問、その他の業務の負担が大きくなり、保育士の疲弊感が強いことを明らかにしている。この2つの調査から、保育園において精神障害を抱える親の支援をしていくことは支援者にとっての負担が大きいことがわかる。しかし、ここでは支援者側の問題を明らかにしているものの、保育現場における精神障害を抱えている親とその子ども、とりわけ乳幼児である子どもの実態との関連で支援を検討されていな

い。

Ⅳ．考察

精神障害者の子育てに関する研究は 2000 年代以降見られ、保育や福祉領域からも発信されるようになってきた。一般の子育てにおいては親に関する研究は多いものの、精神障害を抱える親に限定すると、その研究は極めて少ない。精神障害を抱える者の特徴の一つとして、集中して物事に取り組むことや順序立てて考えたりすることが難しいことが挙げられる。そのために調理・掃除・整理整頓など身の周りのことや家事をすることが難しい。こうした症状から精神障害を抱える者は日常生活に支障をきたしやすく、子どもとの暮らしにおいては、その子どもの生活にも支障をきたす（土田、2014）。生活が不安定になると、子どもは感情的に揺れ、親を揺さぶり、親にさらなるストレスを及ぼす（松宮、2020）。これがエスカレートすると児童虐待へとつながる可能性もあり、親のみならず子どもへの支援も必要となる。

先述した精神医療サービスを利用している人を対象にした山口（2007）の調査では、彼らの子育てをサポートしているのは、実家を主としたインフォーマルな支援が大きい。しかし「配偶者の支援」に関する記述はみられなかった。同調査では、調査回答者 998 名中、独身で子育てをしている者が 136 名おり、精神疾患を抱えながら一人で子育てをしている者も一定数存在している。支援の検討においては、①ひとり親と配偶者がいる場合、②精神障害を抱えている者が家族の誰であるのか、③家族や親族の支援の状況、といった家族形態や家族状況の違いによって生活の支障の程度が異なり、フォーマルな支援の求め方も変わってくる。有効な支援を検討するには、その前段として当事者家族の形態や社会における位置、また家族へのインフォーマルなサポート状態を把握しつつ、生活の特徴や生活の支障がどのように異なってくるのか、その内実を分析する必要がある。

フォーマルなサポートに関しては、山口（2007）の報告によれば、当事者の約 20％が保育園や託児所を利用していることを明らかにしている。一方、保育現場からは、精神障害を抱える親の支援をしていくことは負担が大きいことも示されていた（太田ら、2019、宮口、2020 など）。先述したように、精神障害者の子どもへの支援に着目する研究が増えてきているが、乳幼児に関しては少ない。その背景には、①乳幼児期の子どもは声を上げて援助希求ができないことや問題行動が学齢期以降の子どもより見えづらい、②保育現場において利用者のプライバシーの問題や情報開示の壁が高い、などにより、支援においても調査においても繋がりづらい存在となりがちである。実際、メンタルヘルスの調査をする際には多くの困難が伴う（宮口、2020）とあるように、その実態は把握しにくい。しかし、保育現場における親や子どもへの支援を充実させるためにも精神障害を抱えている家族の生活実態調査は急務である。まずは、保育現場における利用家庭の家族形態、子どもの性別や年齢、就労状況、家計の状況、ソーシャルサポートの状況など生活環境がどのようになっているかの量的調査を行い、その中で精神障害を抱える親とその家庭の生活に特徴的なことがあるのかを検討することが必要である。今後は、保育現場における利用家庭の生活実態調査を行い、その中で精神障害やメンタル不調を抱える保護者の生活の特徴を明らかにし、支援の在り方について提示することを課題としたい。

注

注）NDL-OPAC は国立国会図書館が所蔵する資料を検索するリサーチシステムであり、学術研究や一般の調査研究に資することを目的とし、雑誌記事検索においては、(1)学術雑誌、(2)特定の分野・業界に関する情報・解説・評論などを掲載している専門誌、(3)(1)、(2)に該当しない機関紙（政党・労働組合・非営利団体・各種協会等の団体が、自らの政策や活動内容、意見及び関連事項を掲載しているもの(4)一般総合誌を採録誌としている。しかし、実際には採録基準に合致するにもかかわらず、採録対象から洩れている文献が存在する可能性を示唆している。

引用・参考文献

1）青木紀久代（2009）．保育園を利用するメンタルヘルスが気がかりな保護者に関する調査研究報告書．社会福祉法人東京都社会福祉協議会．

2）加藤雅江（2020）．つまずきを虐待にしないためにソーシャルワーカーがすべきこと．精神保健福祉，Vol.51，No.4，322-327.

3）草野恵美子，小野美穂（2010）．社会的な要因に関する育児ストレスが母親の精神的健康に及ぼす影響．小児保健研究，第 69 巻，第 1 号，53-62.

4）厚生労働省（2013）．子ども虐待対応の手引き（平成25年8月改正版），26-28.
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/dl/120502_11.pdf（2021年10月4日閲覧）.

5）厚生労働省（2021）．子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第17次報告）の概要，令和3年8月．
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000190801_0002.html（2021年9月7日閲覧）.

6）松宮透高（2020）．メンタルヘルス問題のある親に養育される子どもたち．精神保健福祉，Vol.51，No.4，339-343.

7）宮口佳代（2020）．精神障がいのある親と暮らす子どもの支援．東洋英和大学院紀要，第16号，43-58.

8）及川裕子，久保恭子，後藤恭一（2014）．乳幼児を持つ親のメンタルヘルスと関連要因，園田学園女子大学論文集，第48号，53-64.

9）岡伊織（2003）．利用しやすい子育て支援サービスに向けて．Review 季刊地域精神保健福祉情報，Review 編集委員会編，44-47.

10）太田敬子，中村真一，臺有桂（2019）．メンタルヘルスに課題を抱える保護者への保育所における養育支援の実態と保育と地域福祉保健との連携に関する研究．鎌倉女子大学学術研究所報，第19巻，13-20.

11）大高靖史（2020）．虐待予防と子育て家庭支援における精神保健福祉士の役割：総合病院の立場から．精神保健福祉，Vol.51，No.4，356-359.

12）澤田いずみ（2012）．精神障害をもつ人が親になる過程を支える看護．小児看護，第35巻，第3号，331-336.

13）高田美也子，堀井節子（2010）．精神障害者の子育て支援における保健所・医療機関・乳児院の役割と連携　有機的なチーム支援体制が構築された事例をとおして．保健師ジャーナル，Vol66，No.10，918-923.

14）田村芳香（2019）．メンタルヘルス・ソーシャルワークの視点で子育て家庭を応援したい　子育て家族応援ステーション　プティパの小さな実践．精神保健福祉，Vol.50，No.2，186-189.

15）土田幸子（2014）．精神障害を持っている親たち．児童心理，68（6），48-53.

16）山口弘美（2007）．精神障害者の結婚と子育て～精神医療ユーザー1000人の実態調査から～．病院・地域精神医学，49巻，3号，190-191.

17）吉田真由美（2020）．児童福祉施設における PSW の支援の可能性について：児童福祉施設の立場から．精神保健福祉，Vol.51，No.4，348-351.

18）四ツ谷創史（2020）．精神保健福祉士の視点で考える子ども家庭支援　児童相談所の立場から．精神保健福祉，Vol.51，No.4，344-347.